

# 杉のL T床が実物件採択の段階へ

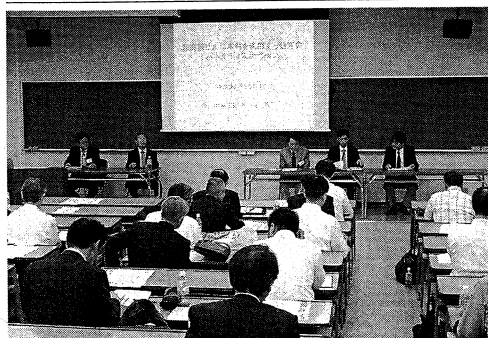
## 6階建て木造の詳細検討も進む

超高層ビルに木材を使用する研究会総会・記念講演会

超高層ビルに木材を使用する研究会(稲田達夫会長)は15日、福岡大学で第4期通常総会及び記念講演会を開催した。CLT床2時間耐火構造の大臣認定を取得(山佐木材、旭化成建材の共同)したことで、今後は実物件での採択に向け取り組んでいく。会員数も法人13、個人48と拡大している。

総会では稲田会長が「まる思いだ。支えてく  
あいさつし「設立して ださった皆様に感謝し  
丸3年が経つが、当研 ている」と話した。昨  
究会をめぐる状況も当 年度は林野庁委託事業  
初と大きく変わってき 「CLT等新たな製品  
た。実物件でCLT床 ・技術の開発・普及事  
活用に向けてどう進めて 業(木質耐火部材開  
いくのか、身が引き締 業)(事業責任者)山  
発)」で中間報告会、 佐木材、諮問組織(同

研究会)で、鋼構造オ  
フィスの床にCLT等  
を使用するために必要  
な検討を行っていく。  
記念講演では中島史  
郎宇都宮大学地域デザ  
イン科学部建築都市デ  
ザイン学科教授が、我  
が国における中層建築  
物の木造化に関する研  
究開発、海外の高層建  
築物の木造化事例など  
を紹介した。特に木造  
6階建てを実現するに  
当たり、通  
常より強い  
耐力壁の仕  
様や通しポ  
ルト(タイ  
ダウン金  
物)の設計  
などの概要  
を話した。  
服部浩治林  
野庁木材産  
業課木材製  
品技術室課  
長補佐は、  
木材需要拡大のため都  
市の木質化に向けた技  
術開発が必要とし、同  
研究会の取り組みの重  
要性を指摘した。  
パネルディスカッシ  
ョンには稲田会長、中  
島、服部の両講師、ま  
た麻生直木竹中工務店  
東京本店設計部構造部  
門部長、佐々木幸久山  
佐木材社長が登壇。鋼  
構造ビル床のCLT化  
について、防・耐火、  
建築コスト、CLTの  
可能性と課題、日本の  
林業の経営問題、高層  
ビルでの使用状況、先  
導的プロジェクトによ  
る支援策などの課題を  
挙げ議論した。



パネルディスカッションでは実物件採択  
に向け課題の議論が進められた